

2. アセットマネジメントについて

2.1 アセットマネジメントの定義及び効果

平成21年7月に公表された「水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)に関する手引き」(以下「手引き」という。)の中では、アセットマネジメントの定義及びその効果について、以下のとおり位置付けている。

(1) 定義

水道におけるアセットマネジメント(資産管理)とは、「水道ビジョンに掲げた持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動」を指す。

(2) 効果

アセットマネジメント(資産管理)の実践によって、次に示すような効果が期待される。

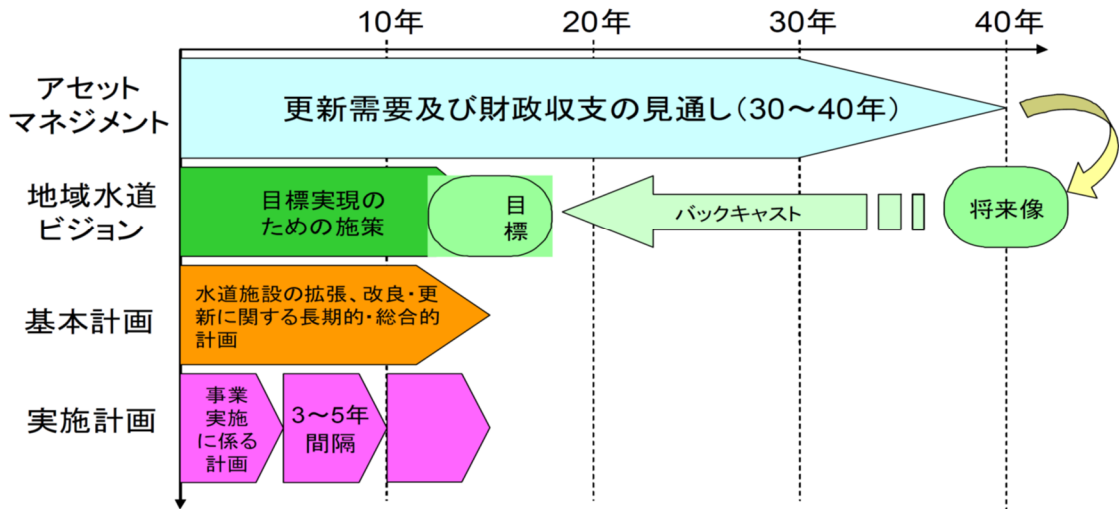
- 1) 基礎データの整備や技術的な知見に基づく点検・診断等により、現有施設の健全性等を適切に評価し、将来における水道施設全体の更新需要を掴むとともに、重要度・優先度を踏まえた更新投資の平準化が可能となる。
- 2) 中長期的な視点を持って、更新需要や財政収支の見通しを立てることにより、財源の裏付けを有する計画的な更新投資を行うことができる。
- 3) 計画的な更新投資により、老朽化に伴う突発的な断水事故や地震発生時の被害が軽減されるとともに、水道施設全体のライフサイクルコストの減少につながる。
- 4) 水道施設の健全性や更新事業の必要性・重要性について、水道利用者等に対する説明責任を果たすことができ、信頼性の高い水道事業運営が達成できる。

2.2 アセットマネジメントの検討期間

アセットマネジメントは、中長期の更新需要及び財政収支の見通しの把握が必要であり、手引きでは、施設の耐用年数や更新財源としての企業債の償還期間を考慮して、少なくとも30~40年程度の中長期の見通しについて検討することとしている。

このため、本検討では2016年度(平成28年度)から2058年度(平成70年度)までの43年間とする。

図 2-2-1：アセットマネジメントと水道ビジョン等の各種計画との関係図

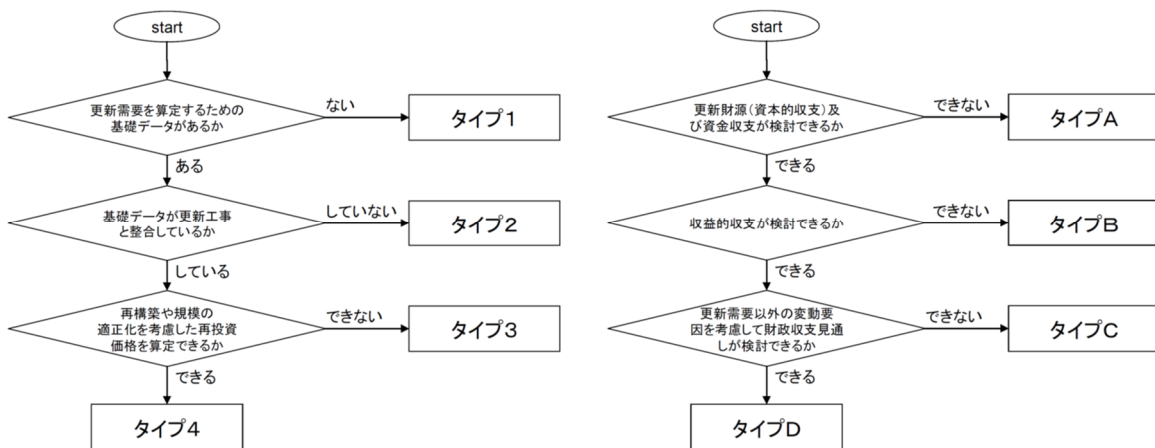


出展「水道事業におけるアセットマネジメント（資産管理）に関する手引き」

2.3 アセットマネジメントの実践手法

アセットマネジメントの理想的な形は、全ての現有施設で必要情報が整備され、さらに、個別施設ごとの維持管理・診断評価（マイクロマネジメント）が完全に実施された状態で、中長期の更新需要・財政収支の見通し検討（マクロマネジメント）を行うことであるが、本市水道事業においては不足するデータも存在することから、現存するデータの収集整理を行った上で、下記フローに従い検討可能な手法の選定を行うものとする。

図2-3-1. 更新需要、財政収支見通しの検討手法に関する自己診断



出展「水道事業におけるアセットマネジメント（資産管理）に関する手引き」

検討手法を決定後、以下のフローに従い業務の遂行を図る。

図 2-3-2 : アセットマネジメント実践フロー

